

授業科目	論理学	担当 教員	氏名	柴村 馨
単位・時間数	1単位・40時間		所属	グレードアップ・ラボ
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	本授業では、看護に必要な論理的思考力と伝達力（文章力）を、実践を通して身につけられるようワークを取り入れる。ワークでは文章作成や相互チェックを通して文章の目的を明確にする重要性を認識し、伝え方の工夫を学ぶ。			
到達目標	論理的思考に必要な基礎知識を学び、ワークで実践することができる。ワークにおける文章作成や相互チェックの経験を通して、医療現場でも活用できる文章力を身につけることができる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2	看護と論理的思考力と文章力		講義
2	2	文章を書いてみる・相互に読み合ってみる		講義・ワーク
3	2	CHAPTER1 言葉の使い方を学ぶ（テキスト pp.3～13）		講義・ワーク
4	2	CHAPTER2 日本語と論理（テキスト pp.14～23）		講義・ワーク
5	2	CHAPTER3 文と文のつながり（テキスト pp.27～37）		講義・ワーク
6	2	CHAPTER3 文と文のつながり（テキスト pp.38～44）		講義・ワーク
7	2	CHAPTER4 論文の仕組み（テキスト pp.45～51）		講義・ワーク
8	2	CHAPTER4 論文の仕組み（テキスト pp.51～63）		講義・ワーク
9	2	CHAPTER5 論文の設計図（テキスト pp.64～76）		講義・ワーク
10	2	CHAPTER5 論文の設計図（テキスト pp.76～83）		講義・ワーク
11	2	CHAPTER6 論証の定石（テキスト pp.87～98）		講義・ワーク
12	2	CHAPTER6 論証の定石（テキスト pp.98～108）		講義・ワーク
13	2	CHAPTER7 反論の定石（テキスト pp.109～123）		講義・ワーク
14	2	CHAPTER8 反論の実践（テキスト pp.124～141）		講義・ワーク
15	2	CHAPTER9 記号論理の基礎（テキスト pp.145～159）		講義・ワーク
16	2	CHAPTER9 記号論理の基礎（テキスト pp.159～167）		講義・ワーク
17	2	CHAPTER10 記号論理の応用（テキスト pp.168～178）		講義・ワーク
18	2	CHAPTER10 記号論理の応用（テキスト pp.178～190）		講義・ワーク
19	2	文章を書いてみる・相互に読み合ってみる		講義・ワーク
20	2	全体のまとめ		講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に（テキスト）で示されている部分に目を通してこるこ</li> <li>・授業中に書き上げられなかつた提出物等を仕上げてこるこ</li> </ul>			

テキスト	著) 篠澤和久、松浦明宏、信太光郎、文景楠 『はじめての論理学 伝わるロジカル・ライティング入門』有斐閣ストゥディア
参考文献	福富馨著：『看護師のためのこれならわかる！レポート・論文の書き方』ナツメ社
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	授業中の提出物 5 点：提出状況等 思考力と伝達力 25 点：文章作成・文章相互チェック 筆記試験 70 点：○×問題（30 点），穴埋め問題（40 点） 計 100 点で評価する。

授業科目	情報処理演習	担当 教員	氏名	佐藤 教昭
単位・時間数	1単位・30時間		所属	産業医科大学
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	<p>情報処理演習は、統計学とコンピュータリテラシーで構成される。  統計学では、看護研究を遂行する上で必要な統計的手法を理解させ、実際のデータを統計解析しある結論を導き出せるようにさせる。  コンピュータリテラシーでは、ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションソフトの基本操作はもとより、進んだ機能を利用できるようにさせる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学における用語、適応事例などを理解し、説明できる。</li> <li>2. 統計学の知識を用いて、データ解析ができ、解析結果からある結論を導き出すことができる。</li> <li>3. ワードプロセッサソフトウェア(Word)で進んだ文書作成機能が利用できる。</li> <li>4. スプレッドシートソフトウェア(Excel)で進んだデータ処理機能や統計処理機能が利用できる。</li> <li>5. プレゼンテーションソフトウェア(PowerPoint)で進んだプレゼンテーション機能が利用できる。</li> <li>6. インターネットを用いた情報収集、情報交換ができる。</li> <li>7. 情報セキュリティ、情報倫理に関して適切な判断ができる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	コンピュータ (Windows) 基本操作 ワードプロセッサ (Word) 実習	演習
	2	4	スプレッドシート (Excel) 実習	演習
	3	4	平均値、分散 相関係数	講義
	4	4	正規分布 検定と推定、母平均の検定	講義
	5	4	平均値の差の検定 プレゼンテーションソフト (PowerPoint) 実習	講義 演習
	6	4	分散比の検定、母相関係数の検定 インターネット実習、情報リテラシー	講義 演習
	7	4	分散分析、比率に関する検定 画像処理、音響処理、その他	講義 演習
	8	2	$\chi^2$ 検定、正規性の検定	講義
授業時間外の学習	<p>統計学では、演習問題（初回配布プリント）を用意している。学生は、授業で解説した検定手法を復習のために各演習問題で実際に使ってみて、理解を深める。  コンピュータリテラシーでは、ワードプロセッサ実習、スプレッドシート実習、プレゼンテーションソフト実習の終了後に課題を与える。授業で行った操作方法を復習しながら、課題を完成させる。</p>			
テキスト	<p>縣 俊彦：やさしい保健統計学、南江堂  小野目如快：Office 2021 で学ぶコンピュータリテラシー、実教出版</p>			
参考文献	授業中に必要に応じて指定する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			

成績評価の方法と基準	統計学の筆記試験（約 80%）（教科書、ノート、プリント持ち込み可） コンピュータリテラシーの課題（約 20%）
------------	---

授業科目	生物学	担当 教員	氏名	野口 俊介
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	産業医科大学
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	以下の事柄について細胞レベル、分子レベルで理解する。 ① 生命体の基本単位であるとされる「細胞」の構造と機能 ② 生命活動に必須のエネルギー調達機構 ③ 遺伝子とそのはたらき ④ 細胞の増殖、分化の機構 ⑤ 生体の機能と調節機構 ⑥ 非自己に対する反応 ⑦ バイオテクノロジーと医療			
到達目標	生物体の構造、はたらき、環境との関わりを理解する。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	生物学の基礎, 細胞	講義
	2	2	生物を構成する物質	講義
	3	2	栄養と代謝	講義
	4	2	遺伝と DNA	講義
	5	2	遺伝情報の発現	講義
	6	2	細胞の増殖と死	講義
	7	2	生殖, 発生, 分化	講義
	8	2	動物の組織	講義
	9	2	動物の器官	講義
	10	2	ホルモンと生体調節	講義
	11	2	神経系	講義
	12	2	免疫	講義
	13	2	微生物と感染症	講義
	14	2	生命システムの破綻: 癌と老化	講義
	15	2	バイオテクノロジーと医療	講義
授業時間外の学習	インターネットなどからの情報収集および図書室の蔵書による自習			
テキスト	田村隆明: 医療・看護系のための生物学, 裳華房			
参考文献	岡田隆夫: 解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理, 羊土社 遠山 益 編著: 分子・細胞生物学入門, 朝倉書店 石原 勝敏 編著: 図説発生生物学, 丸善株式会社 横田 崇: 再生医学がわかる, 羊土社			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			

成績評価の方法と基準	試験は中間と終了の 2 回行う。中間試験・終了試験の平均点を最終評価とし、60 点以上を合格とする。
------------	--

授業科目	人間論	担当 教員	氏名	○松井なつみ <sup>1)</sup> 大木克己 <sup>1)</sup> 鋺賀千夏 <sup>1)</sup> 岩丸花奈 <sup>1)</sup> 林尚志 <sup>2)</sup> 赤星大道 <sup>3)</sup>
単位・時間数	1単位・30時間		所属	1)専任教員 2)下関労働教育センター 3)浄蓮寺
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	1) 無 2)3) 有
受講要件	なし			
授業概要	<p>人間とは、いかなる存在なのか。人間という尊い生命とその存在を再認識し理解を深め、生きるということ、それぞれの人の価値、そして人間の死について考えを深める。人間は、地球上のあらゆる場所で多様性を備えて存在しており、多種多様な人間が生きていくうえでは宗教も影響することがある。また、人間は、他者との関係性の中で生き、死を迎えるまで成長・発達し続ける存在であり、死後も尚、他者へ影響を与える存在である。本授業では、仏教、キリスト教の講義も取り入れ、人間の死生観について考えを深められるようにする。これから看護師を目指す皆さんが、命の誕生から人間の存在のあり方、人生観や死生観、価値観や幸福についての考え方を確立し、人間を対象とする看護を実践するための核となる授業である。</p> <p>授業は、学生が主体的に学習に臨むことができるようにグループディスカッション、グループ発表を取り入れ展開する。</p>			
到達目標	<p>1. 人間の生死・人間の存在のあり方、人間の幸福について理解を深める。 2. 自己の人生観・死生観・価値観を確立するについて考える。</p>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	1	オリエンテーション	資料
	2	2	人間の理解 ～生命の誕生～	DVD レポート
	3	2	キリスト教における人間の生と死	講義(林) レポート
	4	2	仏教における人間の生と死	講義(赤星) レポート
	5	1	講義聴講後の討議	グループワーク レポート
	6	4	VTR	映画鑑賞 鑑賞後、レポート
	7	4	VTR	映画鑑賞 鑑賞後、レポート
	8	2	グループワーク①	抄読会 資料
	9	2	グループワーク②	抄読会 資料
	10	2	グループワーク③	抄読会 資料
	11	2	グループワーク④	抄読会 資料
	12	2	パネルディスカッション 準備	グループワーク
	13	4	パネルディスカッション 準備・発表・	発表

授業時間外の学習	<p>1. 指定の書籍を読みレポートを提出する。各レポートにつき約1時間を要する。</p> <p>2. 講義やVTRを視聴した後にレポートを提出。各レポートにつき約1時間を要する。</p> <p>・なお、上記時間は指定された学習課題に要する標準的な時間である。</p>
テキスト	なし
参考文献	授業の中で指定します。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文 90分（自己の人生観・死生観・価値観について考えを述べる。）</li> <li>・別紙評価表により評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① レポート提出（提出期限、テーマに沿った記述）18%</li> <li>② 受講態度（事前学習、発言、授業参加等）19%</li> <li>③ 小論文 63%</li> </ul> </li> <li>①～③をあわせ100点で評価する。60点以上を合格とする。</li> </ul>

授業科目	人間関係論	担当 教員	氏名	山本 素子
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	アクティブサポートネットワーク
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	産業カウンセラーとして勤務
受講要件	なし			
授業概要	心理学やカウンセリングの理論に基づき、それをいかに具体的に、人との関係性の中に活かしていくかを学んでいく授業である。 毎回の授業は、講義と演習とを織り交ぜながら進めていく			
到達目標	人間の多様性を知り、違いを受け入れ、活かすための方法を習得する。また看護師として必要なコミュニケーション技法を知り、学生生活や看護師としての実務の中で使えるようになる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		イントロダクション、コミュニケーションの基礎知識	講義/演習
2	2		自己理解と他者理解①偏愛マップを使って	講義/演習
3	2		自己理解と他者理解②自己概念	講義/演習
4	2		自己理解と他者理解③価値観	講義/演習
5	2		自己理解と他者理解④多様性の理解	講義/演習
6	2		言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義/演習
7	2		カウンセリングスキル①	講義/演習
8	2		カウンセリングスキル②（積極的傾聴）	講義/演習
9	2		伝えるスキル① 論理的思考	講義/演習
10	2		伝えるスキル② アサーティブネス	講義/演習
11	2		チームワーク リーダーシップとフォロワーシップ	講義/演習
12	2		モチベーション（やる気）	講義/演習
13	2		メンタルヘルス・ストレスケア	講義/演習
14	2		「幸せ」についての考察・幸福学	講義/演習
15	2		まとめ	講義/演習
授業時間外の学習	【予習】各回の講義前に、シラバスで提示された内容について、自分なりに調べておくこと。（例：自己概念⇒自己概念の言葉の意味を調べておく、等） 【復習】講義終了後は配布されたプリントを見直し、自分の言葉でまとめ、整理しておくこと。			
テキスト	なし。講義時にプリントを配布する。			
参考文献	講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	最終試験をもって成績評価とするが、講義態度が著しく悪い学生、また指示された提出物を出さない学生については、最終試験点数より若干のマイナス点で評価する。マイナスの度合いについては、おおむね 10%程度とする。			

授業科目	心理学	担当 教員	氏名	長池 和代
単位・時間数	1単位・30時間		所属	九州大学大学院 人間環境学府
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	本講義では、心理学の基本的な概念について解説し、日常生活における思考や感情、行動について、心理的な側面から考察する。 我々の社会的行動を支えている心理的機能について、医療現場における具体的な話題と関連づけながら解説していく。			
到達目標	人間の思考・感情・行動について、心理学的な観点から理解できる力を身につける。 加えて、医療従事者として、人間の心理的機能を踏まえた上での、自己理解・他者理解を目指し、円滑な対人関係を構築するための知識を身につける。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	4		イントロダクション・動機づけ 講義の進め方・評価方法等の説明を行い、心理学の基本的な視点について講義する。また「やる気はどこから来るのか?」という観点から、動機づけについて講義する。	講義
2	4		学習のメカニズム・社会的認知 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、学習性無力感について解説し、物事の判断に影響を及ぼす、認知的なバイアスについて取り上げる。	講義
3	4		集団意思決定 集団で意思決定を行う際の心理的な変化について、演習を交えつつ解説する。	講義・演習
4	4		集団による問題解決 集団で課題を解決するプロセスやチームワークを発揮するための要因について、演習を交えつつ解説する。	講義・演習
5	4		集団規範と社会的影響・態度と説得 集団圧力による同調など、集団で生じる力学について取り上げる。また、他者への説得が必要な場面でのコミュニケーション技法について、講義する。	講義
6	4		ストレスとコーピング 現代社会のストレスについて取り上げ、その対処方法について講義を行う。ワークシートを用いて、自身のストレスについて振り返る。	講義・演習
7	4		ソーシャルスキルとシャイネス 円滑な対人関係を構築するためのスキルトレーニングについて解説し、ロールプレイを行う。	講義・演習
8	2		選択の意思決定 より良い意思決定を行う際に重要となる心理的な要因について解説し、DVDを視聴する。	講義
授業時間外の学習	随時、講義内容と関連したワークシートを配布する。講義中の指示をよく聞き、課題を作成した上で、次回の授業に臨むこと。 (例：「最近、ストレスだと感じる事について振り返る」など)			
テキスト	なし			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終講試験（100点）を実施する。

授業科目	社会学	担当 教員	氏名	松浦 優
単位・時間数	2単位・30時間		所属	九州大学大学院 人間環境学府
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	本講義では、看護師が身近に接する患者・利用者の現状と現代社会のあり方との関係について、あるいは看護という行為と現代社会のあり方との関係について、社会学の視点から理解することを目指す。将来、関わる医療や看護の世界を社会的に捉えることを通じて明らかになる問題について検討する。			
到達目標	1. 看護と現代社会のあり方との関係について、社会学の視点から理解することができる。 2. 医療や看護に関する問題について、複眼的・批判的な視点から検討することができる。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	はじめに 社会学への招待／社会学のなりたち	講義
	2	4	少子高齢化の推移と福祉国家の現在／現代家族の社会学	講義
	3	4	社会のなかのジェンダー規範／性と身体に関する医療知	講義
	4	4	医療の文化的側面／医療の社会学	講義
	5	4	ケアの社会学／看護・介護現場における「感情」の所在	講義
	6	4	現代社会の貧困と格差／社会的逸脱と社会的包摂の仕組み	講義
	7	4	健康と予防の産業化と自己責任論／看護から考えるグローバル化	講義
	8	2	生と死の社会学	講義
授業時間外の学習	テレビのニュース番組や新聞を通じて、社会の最新の動きに興味を持つようになることを期待する。			
テキスト	阪井俊文／濱野健／須藤廣 編著：看護を学ぶ人のための社会学，明石書店			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	筆記試験（80点）、平常点（20点）の合計で評価する。 詳細は授業内で説明する。			

授業科目	文化人類学	担当教員	氏名	宮本 聡
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	九州大学 人間環境学研究院
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	無
受講要件	無			
授業概要	本講義では、文化人類学において培われてきた基礎知識や視点を身につけ、文化の多様性とグローバルな状況を適切に理解することをめざす。また、異文化間の相互理解及び他者理解に向けた課題について考える。これらを通して、今後の多文化化が進展することが予想される医療や看護の臨床での実践への応用を目指す。			
到達目標	(1) 文化人類学の基本的な知識と考え方を身に付け、文化や価値観の多様性とその背景について理解する。 (2) 現代社会のなかで起きている「文化」をめぐる新しい状況について理解し、異文化間の相互理解に向けた課題と自らとるべき姿勢について理解する。 (3) 臨床における多文化状況における課題と求められる態度について理解する。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	(1) 文化人類学とは？ (2 時間) 文化人類学の歴史や方法について講義を行う (2) 人間と文化 (2 時間) 文化人類学における文化の概念について説明し、文化の多様性についての講義を行う	講義・映像 テキスト：1,2 章
	2	4	(3) 儀礼について (2 時間) 通過儀礼論・境界理論について説明し、人間の儀礼の意味について講義を行う。 (4) 儀礼と臨床 (2 時間) 臨床場面 (死の儀礼) における儀礼の意味について考える。	講義・映像 テキスト：第 4,7 章
	3	4	(5) 宗教・世界観 (2 時間) 文化人類学における宗教や世界観の多様さと世界認識について講義を行う。 (6) アニミズム・シャーマニズム (2 時間) 医療と関連するアニミズムやシャーマニズムの考え方について講義を行う。	講義・映像 テキスト：第 5 章
	4	3	(7) 健康と医療 (2 時間) 医療人類学の知見から、文化と医療についての講義を行う。 (8) 健康と医療 2 (2 時間) 文化と医療の文化人類学的な知見を受けて、臨床における課題を考える。	講義・映像 テキスト：第 6 章
授業時間外の学習	・予習：事前に関連するテキストの内容に目を通してくること ・復習：授業に取り扱った内容について振り返りを各自行う。			
テキスト	波平恵美：系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 第 4 版, 医学書院			
参考文献	梅屋潔・シンジルト(編)『新版 文化人類学のレッスン』, 学陽書房, 2017 山下晋司・船曳建夫(編)『文化人類学キーワード』, 有斐閣, 2008			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	以下の方法によって評価を行う。 (1)授業態度：20 点、(2)提出物点：20 点、(3)テスト：60 点 計 100 点で評価する。 採点等の評価基準については到達目標に準ずる。			

授業科目	法と人権	担当 教員	氏名	村里 淳
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	思永法律事務所
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	法律事務所に弁護士として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>社会が成立するには、法をはじめとする規範が必要です。国を単位として構成される現代社会では、国の基本的な理念である憲法を中心に、国民が守るべき規範と罰則（刑事法）、国民が社会生活を送るうえで生じる利害の調整（民事法）など、いろいろなルールが定められており、法律体系として明文化されています。</p> <p>私たちは、日頃法律を意識して生活することは少ないですが、実際はさまざまな法律の網の中で暮らしています。社会の公平性や生活の安全も、法律が守ってくれています。本授業では、人々が暮らす社会を理解するために法について理解してほしいと思っています。</p> <p>また、現代社会は、多様な人々、さまざまな価値観を持つ人々が暮らしています。多様性を持つ人々を尊重し、共生していくためには、どのようにすればよいのかその思考方法を身につけ、人権意識の高揚を図ることも目指しています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法をはじめとする規範がどのように社会を成り立たせているのかを理解する。</li> <li>2. さまざまな価値観を持つ人々の人権を守るための考え方を身につける。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	法の体系・憲法（人権） テキスト第1章・第9章	講義
	2	2	憲法（統治） テキスト第8章	講義
	3	2	民法（契約法・消費者法） テキスト第2章・第3章	講義
	4	2	民法（不法行為） テキスト第4章	講義
	5	2	民法（家族法）・会社法・労働法 テキスト第5章・第10章・第11章	講義
	6	2	刑法 テキスト第6章・第7章	講義
	7	3	人権と国際法 テキスト第12章・第13章	講義
授業時間外の学習	予習としてテキストの該当部分を読んでくること。			
テキスト	池田真朗 編：プレステップ法学，弘文堂			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の出席状況，受講態度・発言の有無等（30%）</li> <li>・最終試験（70%）</li> </ul>			

授業科目	教育学	担当 教員	氏名	木村 菜太
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	九州女子大学
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	本授業の目的は、人々の健康的な生活を支援する上で、看護が有する教育的機能を自覚すると共に、その基礎的な知識を学習することにある。また、受講者自身が入職後に、専門職としての過ごす生涯に思いを馳せ、そのあり方についての理解を深める機会として、成人教育が生涯学習等の概念についても理解を深める機会とする。			
到達目標	1. 教育の本質と意義・機能を学び、人間の成長・発達と学習との関連性を理解する。 2. 教育方法の基礎知識を理解する。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	4	教育学における基礎的諸概念 (テキスト pp. 4-54) ①看護と教育の関係 ②「教育」概念 ③「子ども」概念 ④教育の組織化		講義・演習
2	4	教育を構成する要素 (テキスト pp. 55-118) ①教授 ②訓育 ③養護 ④発達		講義・演習
3	4	教育実践とその問題 (テキスト pp. 119-191) ①公教育と私教育 ②教育のデザイン (1) ③教育のデザイン (2) ④教育の担い手		講義・演習
4	3	現代の教育課題 (テキスト pp. 193-257) ①教育と自己実現 ②障害と教育 ③本科目のまとめ		講義・演習
授業時間外の学習	予習復習を行うこと			
テキスト	木村 元 編 : 系統医学講座 教育学, 医学書院			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	終講試験 (100 点) を実施する。			

授業科目	英語	担当 教員	氏名	安丸 雅子
単位・時間数	2単位・45時間		所属	非常勤講師
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	カルテの表記などで使用される基本的な医療英単語と、実際の場面を想定した英会話表現を習得させ、外国人患者とスムーズな意思疎通がはかれるよう指導する。また学習の過程で、自分なりの暗記方法や習得方法を確立し、それぞれが責任感を持って課題に取り組み、仲間と協力し助け合うことを学ぶ機会を与える。			
到達目標	国際社会に対応し得る英語表現の能力を身に付け、現場で最低限のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		講義概要、実力テスト、会話表現例文1「受付」	講義
2	2		会話表現例文1確認、「身体部位」	演習
3	2		「身体部位」の確認、「骨格」	演習
4	2		「骨格」の確認、「内臓」	演習
5	2		「内臓」の確認、「心臓」	演習
6	2		「心臓」の確認、「脳」	演習
7	2		「症状」①	演習
8	2		「症状」②	演習
9	2		「診療科」	演習
10	2		院内の案内	演習
11	2		中間グループ面接試験	面接試験
12	2		中間筆記試験	筆記試験
13	2		「疾病」①	演習
14	2		「疾病」②	演習
15	2		「疾病」③	演習
16	2		「スタッフ」①②、	演習
17	2		「スタッフ」③、会話表現例文2「健康診断①」	演習
18	2		会話表現例文3「健康診断②」	演習
19	2		「検査」	演習
20	2		「検査」の確認、会話表現例文4「検査指示①」	演習
21	2		会話表現例文5「検査指示②」	演習
22	1		まとめ	演習

23	2	期末グループ面接試験	面接試験
授業時間外の学習	特に予習は必要ないが、毎回コツコツまめに復習を重ねて、長期記憶的に知識を保持するよう努めること。		
テキスト	なし		
参考文献	なし		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	成績は平常点(10点)+筆記試験(70点)+面接試験(20点)の100点満点で評価する。面接試験と筆記試験は中間と期末の2回行う。それぞれ100点満点で一度点数を出した後、中間試験と期末試験の平均点を割り出し、それを当科目の最終評価とする。		

授業科目	健康とスポーツ	担当 教員	氏名	高橋 八十弥
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	北九州スポーツクラブ連絡会
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	<p>現在社会は非常に便利で豊かな時代に入った。インターネットや AI の普及により、身体を動かさなくても多くの日常生活をこなせるようになったが、反面、私たちの日常生活活動は奪われ、運動不足が原因による生活習慣病や様々な疾病に罹り、健康を脅かすようになってきた。本授業では、疾病予防及び健康の維持増進に関わる身体活動・運動を中心に、心身ともに健康な生活を送るための知識と方法を学習する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康的なライフスタイルを理解し、健全な日常生活を送ることができる。</li> <li>●運動不足が生活習慣病を引き起こす原因を理解することができる。</li> <li>●疾病予防・健康の維持増進に必要な身体活動・運動の方法論や技術を習得し、日常生活の中に取り入れ、健康づくりに生かすことができる。●レクリエーションスポーツを実践することで、スポーツ本来の楽しさや意義を理解し、生涯にわたって運動に親しむ意識を培うことができる。</li> </ul>			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	4	オリエンテーション 健康とライフスタイル	正しい姿勢の習得 各種ストレッチ	講義・演習
2	4	生活習慣病と運動	ウォーキング（速度・心拍数測定）	講義・演習
3	4	肥満（メタボ）と運動	簡易体力テスト	講義・演習
4	4	全身持久力を高める運動	リズムダンス・スロージョギング等	講義・演習
5	4	筋力を高める運動	レジスタンストレーニング（スロートレーニング・チューブトレーニング）	講義・演習
6	4	加齢と運動 （サルコペニア・フレイル）	各種トレーニング&レクリエーションスポーツ（卓球又はソフトバレーボール）	講義・演習
7	4	健康づくりの為の身体活動・運動ガイド2023	各種トレーニング&レクリエーションスポーツ（卓球又はソフトバレーボール）	講義・演習
8	2	まとめ		講義
時間外の学習	使用するテキストを熟読し、準備学習・事後学習等を行う。			
テキスト	安部孝・琉子友男：これからの健康とスポーツの科学 第5版，講談社 プリント配布			
参考文献	健康スポーツ医学実践ガイド（日本医師会）・Reference Book（日本スポーツ協会） 講義中に適宜提示する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	<p>終了試験 約50点  授業評価（出席・授業意欲・協調性・運動を安全に行う態度・レポート・小テスト等）約50点  合計100点中60点以上を合格とする。</p>			

授業科目	解剖生理学	担当 教員	氏名	① 森本景之 ② 安達泰弘 ③ 馬場良子
単位・時間数	3単位・90時間		所属	産業医科大学 医学部 ②第1解剖学 ①③第2解剖学
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	看護学を目指す上で基礎となる、人体の正常構造と機能について講義する。講義は総論の後、系統別（臓器別）に行い、疾患の理解や臨床看護につながる内容とする。人体や生命に対する観察力や洞察力の習得を目指すものとする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体における各器官系の形態とその構造を理解できる</li> <li>・人体における各器官系の機能とその機序を理解できる</li> <li>・人体における個体発生と系統発生を理解できる</li> </ul>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	人体の構造と機能を学ぶために	講義 / 森本
	2	4	解剖生理学を学ぶための基礎知識	講義 / 森本
	3	4	栄養の消化と吸収（1）	講義 / 森本
	4	4	栄養の消化と吸収（2）	講義 / 森本
	5	4	呼吸と血液のはたらき（1）	講義 / 馬場
	6	4	呼吸と血液のはたらき（2）	講義 / 馬場
	7	4	血液の循環とその調節（1）	講義 / 馬場
	8	4	血液の循環とその調節（2）	講義 / 馬場
	9	4	血液の循環とその調節（3）	講義 / 馬場
	10	4	体液の調節と尿の生成（1）	講義 / 安達
	11	4	体液の調節と尿の生成（2）	講義 / 安達
	12	4	身体の支持と運動（1）	講義 / 安達
	13	4	身体の支持と運動（2）	講義 / 安達
	14	4	身体の支持と運動（3）	講義 / 安達
	15	4	内臓機能の調節（1）	講義 / 馬場
	16	4	内臓機能の調節（2）	講義 / 馬場
	17	4	情報の受容と処理（1）	講義 / 馬場
	18	4	情報の受容と処理（2）	講義 / 馬場
	19	4	情報の受容と処理（3）	講義 / 馬場
	20	4	外部環境からの防御（1）	講義 / 森本
	21	2	外部環境からの防御（2）	講義 / 森本
	22	4	生殖・発生と老化のしくみ（1）	講義 / 森本

23	4	生殖・発生と老化のしくみ(2) 体表から見た人体	講義 / 森本
授業時間外の学習	解剖・生理学の学問領域は広く、その習得には時間を要する。 そのため、授業の前後に、テキストを用いて予習と復習を行うことが望ましい。		
テキスト	坂井 建夫, 岡田 隆夫: 系統医学講座 解剖生理学, 医学書院		
参考文献	必要に応じ指示する。		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	人体における各器官系の形態と機能についての理解は全5回の試験で評価する。 各試験は100点満点とし、全5回が60点以上で合格とする。		

授業科目	栄養生化学		担当 教員	氏名	楠瀬 千春
単位・時間数	1 単位・20 時間			所属	九州栄養福祉大学
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	無
受講要件	なし				
授業概要	<p>栄養学・生化学ともに体内で行われる正常な物質の動きを知るものです。 本授業では、食物がどのように消化され吸収され、体内でいかに代謝されるかを教授します。さらに、栄養状態の正常と異常を理解して、看護の基礎的知識となることを目指しています。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体の構造・細胞について理解する。</li> <li>2. 糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸などの物質代謝・エネルギー代謝について理解する。</li> <li>3. 5 大栄養素の体内における役割と栄養学的意義を理解する。</li> <li>4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活を理解する。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容	方法	
	1	4	体の構成と栄養生化学 食物と栄養	講義	
	2	4	糖質の構造、消化・吸収、糖質とアルコールの代謝	講義	
	3	4	脂肪酸の構造・消化・吸収、代謝、 コレステロールと胆汁酸の構造、消化・吸収、代謝	講義	
	4	4	たんぱく質とアミノ酸の構造、消化・吸収、代謝 各栄養素の代謝にかかわる酵素の働き	講義	
	5	4	ビタミン・ミネラルの種類と働き・エネルギー代謝 食品成分表の活用法 まとめ	講義	
授業時間外の 学習	<p>解剖生理学と密接に関係する科目であるので受講までに解剖生理学を復習してから受講すること。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。</p>				
テキスト	<p>脊山洋右 編：栄養生化学，メヂカルフレンド社 生物学・解剖生理学のテキストも必要に応じて使用する</p>				
参考文献	<p>必要に応じ随時指示する。</p>				
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	<p>該当なし</p>				
成績評価の 方法と基準	<p>終了テスト（100 点）を行う。</p>				

授業科目	病理学	担当 教員	氏名	榎原 康亮 丈達真央 久保千幸
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	九州労災病院 病理診断科
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて病理医として勤務
受講要件	なし			
授業概要	病理学とは、全身・臓器において疾病として現れる構造的・機能的異常を理解する学問である。この科目では、担当教員の実務経験をもとに、疾病を原因や成り立ちをもとに整理し、病気の本質について理解を深め、医療従事者として知っておくべき医学の基礎を教授します。			
到達目標	病気を正しく理解するための知識を習得し、各種疾病の成因・病態を科学的・系統的に理解する。腫瘍の種類・特徴・進展・病因を科学的・系統的に理解する。考える看護を実践するために、実地臨床において必要な基本的な知識も習得する。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2	総論	病理学の領域 細胞・組織とその障害 再生と修復	講義
2	2		循環障害 炎症	講義
3	2		免疫とアレルギー 感染症	講義
4	2		代謝障害 老化と老年病	講義
5	2		新生児の病理 先天異常	講義
6	2		腫瘍 生命危機 まとめ	講義
7	2	各論	循環器系	講義
8	2		呼吸器系	講義
9	2		歯・口腔系 消化器系	講義
10	3		消化器系 まとめ	講義
11	3		内分泌系 造血器系	講義
12	2		腎・尿路系 生殖器・乳腺	講義
13	2		運動器系 感覚器系	講義
14	2		脳・神経系 まとめ	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。			
テキスト	渡辺照男 編集：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ			
参考文献	笹野公伸 他：シンプル病理学，南山堂 長村義之 他：NEW エssenシャル病理学，医歯薬出版 など			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	総論で1回、各論で2回、計3回の試験を行う。 各100点満点で実施し、それぞれ60点以上を合格とする。			

授業科目	臨床薬理学	担当 教員	氏名	横山 修子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて薬剤師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、薬の投与から投与後の経過観察までの一連の過程における薬の適正使用に関する考え方を教授する。 担当教員の病院での実務経験を踏まえ、臨床場面を意識した実際の看護に求められる薬の知識と薬の投与時の注意事項を理解できるよう授業をすすめる。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬がどのように人体に影響を与えるのか、作用と副作用について理解する。</li> <li>・薬の投与方法、投与量と薬理効果の関係について理解する。</li> <li>・薬を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。</li> </ul>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	第1章 総論1 薬物療法の目的、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用、薬物相互作用	講義 小テスト
	2	2	第1章 総論2 新薬の開発、医薬品の管理	講義 小テスト
	3	2	第2章 末梢神経系作用薬 自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	講義 小テスト
	4	2	第3章 中枢神経系作用薬 麻酔薬、鎮痛薬、睡眠薬、抗精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬	講義 小テスト
	5	2	第4章 循環器系作用薬 降圧薬、強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、抗高脂血症薬	講義 小テスト
	6	2	第4章 循環器系作用薬 輸液、利尿剤、貧血治療薬、止血薬、抗血小板薬、抗凝固薬	講義 小テスト
	7	2	第5章 抗炎症薬 副腎皮質ステロイド剤、NSAIDs、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬	講義 小テスト
	8	2	第6章 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬、鎮咳去痰薬	講義 小テスト
	9	2	第7章 消化器系作用薬 胃酸分泌抑制薬、胃粘膜保護薬、制吐剤、下剤、止痢剤	講義 小テスト
	10	2	第8章 ホルモン系作用薬 糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、甲状腺ホルモン薬、骨粗鬆症治療薬	講義 小テスト
	11	2	第8章 生殖器系作用薬 前立腺肥大症治療薬、子宮収縮薬	講義 小テスト
	12	2	第9章 抗感染症薬 基礎知識、βラクタム系（ペニシリン系、セフェム系）、アミノグリコシド系、マクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン剤、抗結核薬、抗ウイルス薬、消毒薬	講義 小テスト
	13	2	第10章 抗悪性腫瘍薬 殺細胞性抗腫瘍薬（アルキル化剤、代謝拮抗剤、抗腫瘍性抗生物質、ビンカアルカロイド系、タキサン系、白金製剤、トポイソメラーゼ阻害剤）、分子標的治療薬	講義 小テスト
	14	2	第11章 漢方薬 漢方薬	講義

15	2	まとめ 第1～10章のまとめ	講義
授業時間外の 学習	予習においては、教科書の該当頁を熟読し、理解できない個所を明確にし、授業に参加する。復習においては、教科書、講義資料を用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。また、毎回の講義後に配布する小テストにて重要なポイントの理解を深める。		
テキスト	安原 一，小口 勝司：編集わかりやすい薬理学，ヌーヴェルヒロカワ		
参考文献	なし		
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし		
成績評価の 方法と基準	到達目標に対する達成度を終了試験（100%）にて評価する。		

授業科目	臨床検査	担当 教員	氏名	中園 朱実他
単位・時間数	1単位・15時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて臨床検査技師として勤務
受講要件	無			
授業概要	<p>医療分野では多くの検査が実施され、診断のための重要な役割を果たしている。看護師は、検査を受ける患者の看護を行うとともに、得られた検査データの持つ意味を理解し、患者に必要な看護を実践することが求められる。</p> <p>この科目では、担当教員の実務経験をもとに各種検査の目的や方法、検査内容と病態、解剖生理とのつながり、検査データのもつ意味を教授し、看護における判断の基礎的知識となるよう授業を進める</p>			
到達目標	<p>1. 診療における臨床検査の役割について理解する。</p> <p>2. 臨床検査の方法を理解する。</p> <p>3. 検査目的や内容と解剖生理、病態とのつながりを理解する。</p>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	1	<p>1. 総論</p> <p>臨床検査技師の歴史、臨床検査技師の業務範囲・関連法規</p> <p>臨床検査の役割、検査のすすめ方、検査の流れと看護師の役割</p> <p>検査における注意点：検体採取、保存、移送方法</p> <p>看護師の感染・患者の感染の可能性等（針刺し事故等）</p> <p>看護師が実施する検査（POCT検査について概要）</p>	講義 / 中園
	2	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果の見方・考え方</p> <p style="text-align: center;">[ 検査における注意点、検査結果に影響を及ぼす要因 検査値の基準範囲と臨床的意義 ]</p> <p>① 生化学・内分泌検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精度管理</li> <li>・基準範囲と臨床判断値、パニック値</li> <li>・検査結果に影響を及ぼす要因（溶血・乳びなど）</li> <li>・検査値の読み方、考え方について</li> </ul>	講義 / 比嘉
	3	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの</p> <p>② 免疫・輸血・感染症検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもて試験・うら試験、おもてうら不一致について</li> <li>・新生児の血液型検査</li> <li>・特殊な血液型</li> <li>・輸血の同意取得（感染症検査含む）について</li> <li>・緊急時の輸血対応について</li> <li>・輸血副反応、不適合輸血、GVHD、輸血後感染症</li> <li>・抗原・抗体反応</li> <li>・輸血後感染症検査（HBV,HIV等）結果の解釈</li> <li>・輸血後感染症遡及調査について</li> </ul>	講義 / 坂西
	4	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの</p> <p>③ 血液検査・凝固検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採血方法・採血順による検査結果に与える影響・注意点</li> <li>・検査結果に影響を及ぼす要因</li> <li>・血液像と骨髓像、骨髓穿刺における患者説明</li> <li>・凝固カスケード</li> <li>・検査値の基準範囲と臨床的意義</li> </ul>	講義 / 日高

5	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ④ 感染微生物検査 ・感染防止対策の基本と感染対策上重要な耐性菌 ・細菌検査の流れとその特徴 ・検体採取、輸送・保管による検査結果に与える影響・注意点 ・各種感染症と届出感染症の種類	講義 / 川上
6	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑤ 循環器・神経検査 ・循環器検査について ・心電図の誘導と波形パターン、重要な検査所見、 循環器検査を行う場合の注意点 ・脳波検査について ・その他、脳神経検査について	講義 / 池田
7	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑥ 呼吸機能検査 ・看護師が検査する場合の注意点、患者への説明 ・簡易検査について ・肺活量、1秒量・1秒率と臨床的意義	講義 / 立花
8	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑦ 一般検査 ・採尿時の注意点 ・採取後、検体提出における注意点 ・試験紙の判定と結果に与える影響 ・尿沈渣で認められる所見と臨床的意義 ・便潜血検査、髄液検査等の注意点、臨床的意義	講義 / 諸岡
8	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑧ 超音波検査・総括 ・超音波の原理 ・超音波画像と解剖 ・POCT 超音波検査（痔瘡・消化管内糞便エコー） ・FAST エコー（心嚢液、腹水・胸水貯留、心不全など） ・臨床検査のまとめ	講義 / 中園
授業時間外の 学習		各時間の予習復習を行う。	
テキスト		奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院	
参考文献		濱崎直孝 監修：臨床検査精度保証教本， 社団法人日本臨床衛生検査技師会 本田孝行 編著：ワンランク上の検査値の読み方・考え方—ルーチン検査から病態変化 を見抜く—第2版，総合医学社 下正宗 編集：エビデンスに基づく 検査データ活用マニュアル第2版，学研 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会 編集：スタンダード輸血検査テキスト 第3版	
成績評価の 方法と基準		終了試験（100点）を実施する。	

授業科目	診断治療論 1	担当 教員	氏名	高水間亮治 他
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 1 では、内科系疾患のうち呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、内分泌系疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。			
到達目標	代表的な内科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。			
区分	時間	内容		方法
A. 呼吸器疾患	2	呼吸器症状とその病態生理		講義
	2	呼吸器疾患の検査と治療・処置		講義
	2	呼吸器疾患（1） ①炎症性疾患、②気管支喘息、③慢性閉塞性肺疾患		講義
	2	呼吸器疾患（2） ④肺循環疾患、⑤肺結核、⑥気胸、⑦腫瘍		講義
B. 循環器疾患	2	循環器症状とその病態生理 循環器疾患の検査と治療・処置		講義
	2	循環器疾患（1） ①心臓の疾患：先天性心疾患、虚血性心疾患、心筋症 心不全、心タンポナーデ、不整脈、 炎症性疾患、弁膜症		講義
	2	循環器疾患（2） ②血管系の疾患：大動脈瘤、大動脈解離 ③血圧異常：動脈硬化症、本態性高血圧、二次性高血圧 起立性低血圧		講義
	2	循環器疾患（3） ④ショック：心原性ショック、出血性ショック		講義
C. 腎泌尿器疾患	2	腎内科疾患の病態と診断・治療 ①炎症性疾患、②慢性腎臓病、③腎不全		講義
	2	泌尿器科疾患の病態と診断・治療 ①腎尿路結石、② 排尿障害、③腫瘍		講義
	2	男性生殖器の疾患の病態と診断・治療 ①前立腺疾患、②男性性機能障害		講義
D. 消化器疾患	2	消化器症状とその病態生理 消化器疾患の検査と治療・処置 消化器疾患（1） ①上部消化器疾患：炎症性疾患、潰瘍性疾患 ②下部消化器疾患：イレウス、排便障害		講義
	2	消化器疾患（2） ①肝臓・胆嚢・膵臓の疾患炎症性疾患、肝硬変、腫瘍、 脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症		講義

E. 内分泌代謝疾患	2	内分泌疾患の病態と診断・治療 ①間脳・下垂体疾患、②甲状腺疾患、③副甲状腺疾患 ④副腎皮質・髄質疾患	講義
	2	代謝疾患の病態と診断・治療 ①メタボリックシンドローム・肥満症、②糖尿病 ③脂質異常症、④高尿酸血症、痛風、⑤ビタミン欠乏症	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：浅野浩一郎 他：系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器，医学書院 B：吉田俊子 他：系統看護学講座 成人看護学3 循環器，医学書院 C：今井亜矢子 他：系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器，医学書院 D：南川雅子 他：系統看護学講座 成人看護学5 消化器，医学書院 E：黒江ゆり子 他：系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、A・Bは各25%、Cは20%、D・Eは各15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 2	担当 教員	氏名	野上健一郎 他
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 2 では、内科系疾患・外科系疾患のうち脳神経系、運動器系、アレルギー腎・感染症、血液・造血器系疾患、画像診断と放射線治療についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。			
到達目標	代表的な内科系・外科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。			
区分	時間	内容		方法
A. 脳神経疾患	2	脳神経系症状とその病態生理 ①意識障害、②頭蓋内圧亢進症状、③脳ヘルニア 等 脳神経系疾患の検査と治療・処置		講義
	2	脳神経疾患（1） ①脳血管障害：脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、 もやもや病		講義
	2	脳神経疾患（2） ②変性疾患：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 ③脱髄疾患、④認知症、⑤感染症		講義
	2	脳神経疾患（3） ⑥機能性疾患（てんかん）、⑦腫瘍 ⑧末梢神経疾患：ギランバレー症候群、顔面神経麻痺 ⑨筋・神経筋接続部の疾患：筋ジストロフィー 重症筋無力症		講義
B. 運動器器疾患	2	運動器疾患の症状とその病態生理 運動器疾患の検査と治療・処置		講義
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：骨折、脱臼、捻挫 腫瘍、変形性関節症、腰痛症		講義
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：脆弱性疾患（骨粗鬆症）、炎症性疾患 ②脊髄損傷		講義
C. アレルギー・膠原病・感染症	2	アレルギー疾患の病態と診断・治療 ①アレルギーとは、②花粉症、③蕁麻疹、 ④接触性皮膚炎、⑤アナフィラキシーショック		講義
	2	膠原病疾患の病態と診断・治療 ①自己免疫疾患とその機序、 ②全身性エリテマトーデス、③関節リウマチ、 ④シェーグレン症候群		講義
	2	感染症の病態と診断・治療 ①感染症とは、 ②感染症の診断と治療、③感染症（呼吸器・消化器等） ④ヒト免疫不全ウイルス感染症		講義

D. 血液・造血器疾患	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ①貧血、②白血球減少、③出血性疾患(輸血療法を含む)	講義
	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ④腫瘍	講義
E. 放射線医学	2	画像診断 ①X線診断、②CT、③MRI、④超音波診断 ⑤核医学、⑥IVR・血管造影	講義
	2	放射線治療総説：放射線治療の原理、有害反応、照射法の種類	講義
	2	放射線治療各論 放射線防護	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：井手隆文 他：系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経，医学書院 B：田中栄 他：系統看護学講座 成人看護学10 運動器，医学書院 C：岩田健太郎 他：系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症，医学書院 D：飯野京子 他：系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器，医学書院 E：長尻博也 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは25%、B・C・Eは各20%、Dは15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 3		担当 教員	氏名	①日暮愛一郎 他 ②中藪誠 ③寺田由紀 他
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①②北九州総合病院 ③小倉歯科医師会
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	①病院にて医師として勤務 ②病院にて理学療法士として勤務 ③歯科医院にて歯科医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 3 では、外科系疾患、リハビリテーション療法、歯・口腔疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な外科系疾患・歯口腔疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、リハビリテーション療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容		方法	
A. 外科疾患	4	外科総論 手術療法と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒 外科治療の実際		講義	
	4	消化器疾患の治療 ①上部消化器疾患、②下部消化器疾患		講義	
	4	消化器疾患の治療 ③肝臓・胆嚢・膵臓疾患 腹壁疾患		講義	
	2	呼吸器疾患の治療 肺疾患：肺がん、気胸		講義	
	2	乳腺疾患の治療		講義	
B. リハビリテーション療法	2	リハビリテーション・障害の概念、 障害の評価		講義	
	2	運動器系の障害とリハビリテーション 中枢神経系の障害とリハビリテーション		講義	
	2	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション 感覚器系の障害とリハビリテーション看護		講義	
	2	リハビリテーション療法の実際		演習	
C. 歯・口腔疾患	2	歯科概論		講義	
	2	小児・妊婦の歯科疾患、歯周病		講義	
	2	高齢者の歯・口腔疾患		講義	
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院 北島政樹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論，医学書院 B：原三紀子 他：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護，医学書院 C：渋谷絹子 他：系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは50%、B・Cは各25%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	微生物学	担当 教員	氏名	①小川 みどり ②塩田 進
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	無
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	無
受講要件	なし			
授業概要	微生物学の対象である細菌、ウイルス、真菌、原虫、プリオンの生物学的特徴を概説し、感染症の原因となる主な病原体（病原微生物）については、性状、病原性などを教授する。一方、病原体に対する宿主の防御機構について講義し、人体と病原体との相互関係、感染症の発症機序を理解できるようにする。さらに、感染症を予防・コントロールするために必要な消毒と滅菌の原理と基礎、化学療法、ワクチン（予防接種）などについて講義を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 真核生物と原核生物の違いを理解し、各種微生物の生物学的特徴を説明できる。</li> <li>2. 病原体に対する宿主の非特異的および特異的生体防御機構について説明できる。</li> <li>3. 消毒と滅菌の違いを理解し、主な方法を説明できる。</li> <li>4. 化学療法薬の種類と機序を理解し、治療への応用や耐性について説明できる。</li> <li>5. 主な病原微生物の性状、病原性、治療、予防について説明できる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	微生物学の基礎：微生物学の歩み、微生物の性質	講義 / 小川
	2	4	感染と感染症 感染に対する生体防御機構	講義 / 小川
	3	2	感染症の治療	講義 / 小川
	4	4	滅菌と消毒：一般的な消毒薬、滅菌器具の原理・使用法の学習 感染症の現状と対策：予防接種の方法、ワクチンの種類など	講義 / 塩田
	5	4	感染症の検査と診断：生化学的性質、 分子生物学的方法による微生物の同定 病原細菌（1）：グラム陽性菌、グラム陰性菌、抗酸菌	講義 / 塩田
	6	2	病原細菌（2）：嫌気性菌、らせん菌、マイコプラズマ、 リケッチア、クラミジア	講義 / 塩田
	7	4	病原ウイルス（1）：DNA ウイルス、RNA ウイルスの一部 病原ウイルス（2）：RNA ウイルス、肝炎ウイルス、プリオン	講義 / 小川
	8	4	病原真菌と真菌感染症 寄生虫と衛生動物（原虫ほか） 特論（性感染症、食中毒）	講義 / 小川
	9	2	総復習	講義 / 小川
授業時間外の学習	授業前の教科書予習（30分）と授業後のプリントによる授業内容の確認（30分）を毎回行う。			
テキスト	南嶋 洋一 他：系統看護学講座 微生物学，医学書院			
参考文献	吉田 眞一，柳 雄介，吉開 泰信 編：戸田新細菌学 改訂 34 版，南山堂 他、授業中に必要に応じて指定する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	担当講師それぞれに筆記試験を行い、授業内容の理解度と目標到達度を確認する。 各担当講師 100 点満点で評価する。 科目の最終評価は、小川講師 70%、塩田講師 30%で算出する。			

授業科目	医療概論	担当 教員	氏名	青山和義・竹田貴雄
単位・時間数	1単位・15時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>これから看護を学ぶ学生に、医療の全体像を概観し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿をそれぞれの力で考えることを期待し、講義を進めていきます。</p> <p>医療は医師や看護師だけではなく、さまざまな専門職がそれぞれの役割を果たし協働することによって成り立っています。また、社会のニーズによって変化していきます。しかし、人々の生命の尊厳はどのような場面においても尊重されなければいけません。この講義は、病院で日々医療に携わる教員が、その経験を活かしながら、医学、医療における諸活動、医療を取り巻く社会や経済、政策などの講義を行い、医療のあり方を考えていきたいと思っています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療を取り巻く社会の動向を理解し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿を考える。</li> <li>2.生命の尊厳や生命倫理、医の倫理、患者の権利についての考え方について理解する。</li> <li>3.我が国の医療保障制度、医療経済の現状と問題点を理解する。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	生きることと死ぬこと	講義
	2	2	医学と医療	講義
	3	2	保健・医療・介護、社会保障制度	講義
	4	2	保健・医療・介護、社会保障制度	講義
	5	2	医療倫理・医療安全・医薬品	講義
	6	2	医療情報・最先端医療の概要と課題	講義
	7	3	医療と社会、医療経済と政策医療 まとめ	講義
授業時間外の学習	予習復習を行い講義に臨んでほしい。			
テキスト	廣永英生：系統看護学講座医療概論，医学書院			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	終了テスト（100点）を行う。			

授業科目	基礎看護学概論		担当 教員	氏名	佐藤 節美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護とは何か、看護の対象は何か、看護が成り立っている制度や歴史、その活動領域について理解させ、看護の概念を教授する。看護を理解する上で理論は必須であり、どのような理論がどのような看護を導きだしているのか理解させる。看護師の倫理観や看護学生としての倫理的行動を考えさせる。臨床の場で遭遇するであろう事例を提示し、考えさせることで理解を深めさせ、基礎看護技術や各看護学に結びつける礎となる内容とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは何かを知り、理論の必要性について理解し説明できる。</li> <li>2. 看護の対象としての人間を理解する。</li> <li>3. 職業としての看護と看護者の養成制度、看護職者の倫理について学び適切な行動とはなにか説明できる。</li> <li>4. 看護サービス提供の場と看護制度を理解する。</li> <li>5. 看護の活動領域について理解し、説明できる。</li> </ol>				
授業計画		内容	方法		
回	時間				
1	2	看護とはなにか・私の理想の看護師像	演習		
2	2	看護の歴史・看護の定義	講義		
3	2	看護の本質とはなにか 看護理論	講義		
4	2	看護理論	講義		
5	2	看護の役割と機能	演習		
6	2	看護の対象	講義		
7	2	看護の対象 健康と生活	演習		
8	2	健康と生活	講義		
9	2	看護教育の変遷 看護の提供者と看護職の教育制度とその課題	講義		
10	2	看護職者の倫理	演習		
11	2	看護職者の倫理	講義		
12	2	看護の提供のしくみと看護の継続性・看護サービスの管理	講義		
13	2	看護をめぐる制度と政策 看護サービスと経済のしくみ	講義		
14	2	看護管理とは・医療安全と看護業務	講義		
15	2	看護の国際協力と災害時の看護	講義		
授業時間外の学習	湯槇ます 他 訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き 日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：新訳・ナイチンゲール書簡集 現代社 以上の3冊を熟読する				

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論，医学書院
参考文献	学内の図書室にある、理論家の書物すべて
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験を 45 分で実施。 筆記試験 70 点、課題レポート(2 枚)30 点、計 100 点で評価する。 授業中に毎時間の私語や寝ている状況があれば減点する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 1		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	基礎看護技術とは、看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術である。その中でも土台となる看護技術を共通基本技術とし、当科目では、「生活環境技術」および「安全を守る技術」を教授する。生活環境技術では、環境は健康と密接に関連していること、環境を調整する意義や目的、環境を整える際の視点や方法について教授する。また安全を守る技術では、医療を患者が安全に安心して受けるために必要な看護師としての知識、技術、姿勢について臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントおよび調整する目的や方法を説明できる。</li> <li>2. 療養環境の整備・調整、ベッドメイキングおよび臥床患者のリネン交換が実施できる。</li> <li>3. 医療の中の安全確保の基礎知識と事故防止について理解できる。</li> <li>4. 感染の成り立ちおよび感染予防の意義と方法について理解できる。</li> <li>5. 感染防御策及び無菌操作を実施できる。</li> </ol>				
授業計画				内容	方法
回	時間				
1	2	看護技術とは 環境とは：「環境」の概念理解、「環境」と「看護」			講義 グループワーク
2	2	療養生活と環境 療養環境のアセスメントと調整方法			講義 グループワーク
3	2	ベッド周囲の環境整備、環境調整の方法			演習
4	2	病床を整える ベッドメイキング・リネン交換の目的・方法			講義・演習
5	2	ベッドメイキングの実際			演習
6	2	臥床患者のリネン（下シーツ・横シーツ・枕カバー）交換			演習
7	3	安全確保の基礎知識 事故防止のための技術と対策			講義
8	2	感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染性廃棄物の取扱い			講義
9	2	スタンダード・プリコーションの実施 ・衛生的な手指手洗い ・プラスチックエプロン、手袋の着脱 ・廃棄区分ごとの廃棄			演習
10	4	臥床患者の療養環境を整える（事例）			演習
11	2	感染経路別防止策：接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 院内感染発生時の対応			講義
12	2	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と技術 無菌操作			講義
13	3	感染予防の実際 無菌操作（滅菌物の取り扱い、滅菌手袋）・ガウンテクニック 廃棄区分ごとの廃棄			演習

授業時間外の学習	授業の予習と復習、課題レポート、各技術の手順書を参考にセルフトレーニング
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	必要時、紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	環境調整技術として、1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、65.安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)について演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。 感染予防技術として、57.スタンダード・プリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護具の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱い、61.無菌操作について、演習時に自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達確認を行う。
成績評価の方法と基準	①筆記試験(45分) ②技術試験で評価を行う。①、②は各100点とし、それぞれ60点以上を合格とする。 (ただし、授業や演習態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。) 科目の最終評価は、①筆記試験70%、②技術試験30%として算出する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 2		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護実践においてコミュニケーションは、相手の心と心の交流を図り信頼関係の構築や看護上の問題を解決するために用いられるなど、効果的な介入を行う際に必須の技術である。看護・医療におけるコミュニケーションの目的や重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションについての知識・技術・態度を習得し実践できるよう、臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象との関係を築くために必要なコミュニケーション技術の基礎について理解する。</li> <li>2. 医療・看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切なメッセージを伝える方法および対象に応じた効果的な対応を実践できる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素		講義
	2	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本		講義
	3	2	効果的なコミュニケーションの実際		講義
	4	2	効果的なコミュニケーションの実際		講義
	5	2	プロセスレコードの目的 プロセスレコードの記入方法 プロセスレコードの実施		講義・演習
	6	2	コミュニケーション障害への対応		講義
	7	3	看護におけるコミュニケーションの実際 ロールプレイング		演習
授業時間外の学習	・授業中に課題（プロセスレコードなど）を提示するので決められた期日に提出する				
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院				
参考文献	授業中に必要に応じて指定する				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	課題レポート（個人レポート 2 回、GW レポート 1 回）、筆記試験（45 分）で評価する。課題レポートの評価は評価表を用いて行い、個人レポートは第 1 回 20 点、第 2 回 30 点、GW レポートは 10 点、筆記試験は 40 点とし、計 100 点で評価する。				

授業科目	基礎看護学共通基本技術3		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1単位・30時間			所属	専任教員
対象学生	2024度・1年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護師として全人的に人を捉えるヘルスアセスメントの実施は必要不可欠なものである。そのなかでも健康査定を行うための具体的方法であるフィジカルアセスメントは、患者の安全・安楽、対象に応じた看護を提供するための重要な視点であり、看護師の臨床判断能力につながる。まずは、基本となるバイタルサイン（生命徴候）測定の方法の習得を目指す。また、フィジカルイグザミネーションとインタビューから正常か異常（正常からの逸脱）を判断し、看護に結びつけてゆく過程を学ぶ。これらは、教員の臨床での実務経験を活かし教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義と目的、全体の概要が理解できる。</li> <li>バイタルサインの観察や測定、計測などフィジカルイグザミネーションの意味を理解し、説明・実施できる。</li> <li>フィジカルアセスメントの基本手技（視診・触診・打診・聴診）の意味や方法を理解し、手技ができる。</li> <li>系統別アセスメントを行うためのフィジカルイグザミネーションとその根拠がわかり、手技ができる。</li> <li>フィジカルイグザミネーションで得た情報を分析し、報告の必要性とその対処方法を考えることができる。</li> </ol>				
授業計画			内容	方法	
回	時間				
1	2		ヘルスアセスメントの意義と身体計測と記録・報告	講義 演習	
2	2		バイタルサインとは 体温維持に関する基礎知識と測定方法	講義 演習	
3	2		呼吸・循環に関する基礎知識と測定方法	講義 演習	
4	2		血圧測定方法	演習	
5	2		一連のバイタルサイン測定	演習	
6	2		中間試験（30分） フィジカルアセスメントにおける共通基本技術 視診、触診、打診、聴診	講義	
7	2		呼吸器系のフィジカルアセスメント（視診、触診、聴診）	講義	
8	2		循環器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診）	講義	
9	2		呼吸、循環器系のフィジカルアセスメントの実際	演習	
10	2		腹部・消化器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診、打診） 脳・神経系のフィジカルアセスメント（意識レベル、対光反射など）	講義	
11	2		筋・骨格系のフィジカルアセスメント（MMT、関節可動域など） 外皮・リンパ系のフィジカルアセスメント	講義	
12	2		腹部、脳神経系、筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際	演習	

13	2	フィジカルアセスメント技術演習	演習
14	2	事例検討準備（観察、アセスメント）	グループワーク 演習
15	2	事例検討発表	演習
授業時間外の 学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講義前には必ず、課題となる臓器の解剖生理の復習を行い講義に臨む。</li> <li>・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。</li> <li>・演習前は課題となる臓器の解剖生理の復習、技術の予習を行い演習に臨む。</li> <li>・演習後は事後レポートを提出する。（詳細は演習時に説明）</li> </ul>	
テキスト		茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア	
参考文献		坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造と機能[1]解剖生理学，医学書院 渡辺照男：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ 井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・51.身体計測の技術に関しては、演習中に評価表を使用し自己と他者(学生)にて評価する。</li> <li>・50.バイタルサインの測定、52.フィジカルアセスメントの技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。</li> </ul>	
成績評価の 方法と基準		①筆記試験（中間 30 分、最終 45 分）、②技術試験で評価を行う。 ①筆記試験は 2 回（中間試験・最終試験）に分けて実施する。 ＊中間試験は 1～5 回目の講義内容、最終試験は 6～15 回目の講義内容を試験の範囲とする。 ＊中間試験を 40 点、最終試験を 60 点とし、合計 100 点とし、60 点以上を合格とする。 ②技術試験は 2 回（バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント）実施する。 評価は技術試験評価表を使用し、各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①筆記試験 50%、②技術試験は各 25%として算出する。	

授業科目	基礎看護学共通基本技術 4		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護過程は、看護の対象となる人に対して、個々に応じた科学的な看護を実践するための方法を示した思考過程である。ここでは、看護過程の基盤となる考え方を理解し、事例を用いて、看護過程の各段階であるアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価を通して、看護実践における思考過程の方法の理解を促す。また、臨地実習において活用できる看護過程の展開を理解し、看護判断能力及び問題解決能力を養えるよう、臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を用いる意義や看護過程の基盤となる考え方について理解できる。</li> <li>2. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。</li> <li>3. 事例を基にアセスメント、問題の明確化、看護計画、実施、評価の各段階について、基本的な考え方を理解し、記載することができる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容	方法	
1	2	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	講義		
2	2	アセスメント：データアセスメント枠組みを用いた情報収集	講義		
3	2	アセスメント：データの解釈と全体像	講義		
4	2	看護問題の明確化と目標の設定および優先順位の決定、看護計画	講義		
5	2	看護計画、実施、評価の方法、看護要約	講義		
6	2	事例による看護過程の展開	演習 グループワーク		
7	3	事例による看護過程の展開の発表 まとめ	演習 グループワーク		
授業時間外の 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの内容に応じて事前にテキストの内容を確認した上で授業に臨むこと。</li> <li>・個人ワーク、グループワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。</li> </ul>				
テキスト	有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I，医学書院 永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会				
参考文献	川村雅文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器，医学書院 江口正信他：検査値早わかりガイド，医学芸術社 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論[1] 成人看護学総論，医学書院 黒田裕子：改訂版 黒田裕子の入門・看護診断，照林社 論理学で指定されたテキスト、文献、またはプリント				
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし				

成績評価の方法と基準	①筆記試験（45分）50点、②課題成果物（看護過程の展開）を、看護過程評価表を用いて50点で評価し、計100点で評価とする。 ②看護過程の展開は、指定期日までに提出がなければ1日につき1点の減点とする。
------------	--

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 1		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護師の業務には療養上の世話がある。患者の療養上の世話に関する基礎的技術を生活援助技術とし、当科目では、活動・休息におよび食事に関する援助技術について教授する。活動と休息援助技術においては、その意義と日常生活に必要な活動・運動および睡眠・休息を促進する援助技術についての理解を促す。ボディメカニクスを活用して体位変換や移乗・移送、関節可動訓練 (ROM) の技術を習得する。食事援助技術においては、食事の意義を理解し、対象に応じた食事援助を考える基礎的知識・技術・態度の習得をめざす。実務経験のある担当教員の指導のもと各援助の実際を理解する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての活動の意義について理解し、動かないことによっておこる弊害が理解できる。</li> <li>2. ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギーで安全・安楽に身体を動かし、保持する基本的技術および移乗・移送技術の基本が習得できる。</li> <li>3. 食事の意義・栄養・食行動のアセスメントおよび食事時の注意事項を説明できる。</li> <li>4. 対象の状況に合わせた食事援助を実施できる。</li> <li>5. 経鼻経管栄養法の適応、方法と管理を説明できる。</li> </ol>				
授業計画			内容	方法	
回	時間				
1	2	活動・休息の意義、基本的な体位、安楽な体位とは			講義
2	2	ボディメカニクスに必要な知識と体位変換			講義
3	2	体位変換の実際			演習
4	2	移乗・移送援助の基本知識 (杖、車椅子、ストレッチャー)			講義
5	4	移乗・移送の実際 1.杖・歩行器、松葉杖などの歩行の援助、ストレッチャーへの移乗と移送 2.車椅子のへの移乗、移送の実際、ポータブル便器への移乗			演習
6	2	廃用症候群と予防 (関節可動域訓練)、肢位固定			講義
7	2	肢位固定と関節可動域訓練の実際			演習
8	2	睡眠のメカニズムと不眠時の看護			講義
9	2	食事とは 1.食事の意義 2.食事行動 3.食物の流れ、摂食・嚥下のメカニズム			講義
10	2	栄養・食行動のアセスメント 1.栄養状態 2.摂食能力 3.嚥下機能 4.食欲			講義
11	2	食事援助 1.食事療法 2.食事援助の目的 3.看護師の役割 4.援助の実際			講義

1 2	4	食事援助の計画作成(グループ学習) 事例 a.臥床患者 b.視力障害のある患者 c.車いす患者 事例別食事援助の実際 (嚥下障害のない患者の食事介助)	演習
1 3	2	食事援助の振り返り 非経口的栄養法 1.非経口的栄養法の目的、種類と方法 ①IVH	講義・演習
授業時間外の 学習	授業の予習と復習、課題レポート		
テキスト	任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	湯槇ます 他 訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き，日本看護協会出版会		
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	活動・休息援助技術の 13.車椅子での移送、14.歩行・移動介助、15.移乗介助の技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。16.体位変換・保持、18.ストレッチャー移送、69.安楽な体位の調整、食事の援助技術の 3.食事介助（嚥下障害のある患者を除く）は、演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。		
成績評価の 方法と基準	①筆記試験（45分）、②技術試験で評価を行う。 ①、②は各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。（ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。） 科目の最終評価は、①筆記試験 70%、技術試験 30%として算出する。		

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 2		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	この科目では、人間の基本的・生理的欲求の中の衣生活・清潔および排泄の援助について教授する。看護の対象である生活する人間の「衣生活」と「清潔」および「排泄」に関する日常生活行動の持つ意味、ニーズを充足するために必要な基本的知識、具体的な援助方法の理解を促す。どちらの項目も極めてプライベートな部分であるため、プライバシーや自尊心への配慮が必要となる。また、対象の健康状態を把握するための観察の良い機会にもなる。以上を踏まえ、必要な知識・技術・態度を、講義・演習を通し習得していく。看護師としての実務経験を活かし、臨床の場面を伝えることで学生の想像を促し、自ら考え学べるように臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活における衣・清潔、排泄の意義やニーズについて説明ができる。</li> <li>2. 衣・清潔援助を行う際のアセスメントおよび安全・安楽・自立を考えた方法を理解し実践できる。</li> <li>3. 排泄のメカニズムを説明することができ、アセスメントおよび自然排泄を促す援助を理解し実践できる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容	方法	
	1	2	清潔援助の概要 ・人間にとっての清潔の意義の理解 ・清潔援助の基礎知識 ・身体清潔のための援助方法の決定と留意点	講義	
	2	2	衣生活の援助 ・人間にとっての衣生活の意義 ・衣生活に関するアセスメントと援助方法	講義	
	3	2	様々な状況における寝衣交換の実施	演習	
	4	2	臥床患者の歯ブラシを用いた口腔ケアの実際	演習・講義	
	5	2	洗髪 ・洗髪の意義・目的 ・洗髪に必要な基礎知識 ・アセスメントと方法選択、援助方法	講義	
	6	4	臥床患者の洗髪の実施（ケリーパッド）	演習	
	7	2	入浴・部分浴・全身清拭・陰部の保清 ・意義、目的 ・アセスメントと方法選択、援助方法	講義	
	8	4	臥床患者の全身清拭・足浴演習	演習	
	9	2	排泄に関する基礎的知識 ・人間にとっての排泄の意義の理解 ・排尿・排便のメカニズムと排泄機能障害	講義	
	10	2	尿・排泄物の観察とアセスメント方法 対象に応じた排泄援助方法	講義	
	11	2	自然排泄を促す援助の実施 （ポータブルトイレ、床上排泄を促す援助、オムツ交換、陰部洗浄）	演習	
	12	2	事例を用いた自然排泄援助の理解	グループワーク	

1 3	2	事例を用いた排泄援助の実施	演習
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>各講義の前には、授業範囲の教科書、看護技術の参考書を読み、考えをまとめ、手順の把握を行っておく。</li> <li>実技演習前には、講義で学んだ内容を復習し、実技演習中に行動できるようにイメージトレーニングを行っておく。イメージがつかない場合は、図書室の DVD や参考書の動画を視聴するなどしておく。</li> <li>演習後に課題に沿ったレポート等を提示する。</li> </ul>	
テキスト		任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		藤本 真記子：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア 吉田 みつ子 他：写真でわかる基礎看護技術アドバンス，インターメディカ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		清潔・衣生活援助技術の 19.足浴・手浴、20.整容、21.患者の寝衣交換、23.陰部の保清、26.口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。24.清潔、25.洗髪については、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(教員)評価を行う 排泄援助技術の 7.排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)について、演習時に評価表を用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。また、事例を用いた演習を実施しグループ評価を行う。	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。)	

授業科目	基礎看護学診療補助技術 1		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護師の役割のひとつに、患者の診察・治療・検査など診療に関わる過程での援助がある。これら治療過程の援助技術は生命の危機に直結することも多いため、看護師の役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を習得することが極めて重要である。ここでは、看護師による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について講義や演習を通して学習できるようにする。</p> <p>与薬の技術は、直接的な身体への影響が大きい技術であり、安全かつ正しい指示に基づいて正確に行われなければならない。担当教員の実務経験をもとに基礎的な知識、技術が身につけられるよう、講義や演習を通して教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬における看護師の役割について説明できる。</li> <li>2. 与薬を安全かつ正確に実施するための方法を説明できる。</li> <li>3. 筋肉内注射、採血の準備、実施、片づけの一連の手技を安全かつ正確に実施できる。</li> <li>4. 点滴静脈内注射の実施手順と留意点を説明できる。また、輸液速度の調整ができる。</li> <li>5. 診察・検査における看護師の役割について説明できる。</li> <li>6. 処置における看護師の役割について説明できる。</li> <li>7. 創傷管理、包帯法における基礎知識を理解し、安全・安楽に援助を実施できる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	薬物療法の基礎知識 与薬における看護師の役割 薬剤等の管理		講義	
2	2	経口及びその他の方法による与薬 (内服薬、バツカル錠、舌下錠、経皮・外用薬の投与、坐薬の投与)		講義	
3	2	経口及びその他の方法による与薬		演習	
4	2	注射の基礎知識(皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射)		講義	
5	2	注射の実施法		講義	
6	2	点滴静脈内注射 輸液療法と看護		講義	
7	1	注射法(筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射) 演習前オリエンテーション		講義	
8	4	注射法(皮下注射・筋肉内注射)		演習	
9	2	注射法(採血)		演習	
10	2	点滴静脈内注射 輸液療法の実際		演習	
11	1	注射法(筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射) 振り返り		講義	
12	2	診察・検査における看護師の役割 (検体検査、生体検査)		講義	
13	2	処置における看護師の役割 創傷管理の基礎知識、創傷処置(創保護、包帯法)		講義	

14	2	薬物の管理 創傷処置（創保護、包帯法・三角巾固定含む）	演習
15	2	検査の介助 検体の取り扱い（尿・便・喀痰、尿比重測定含む） 放射線の被ばく防止策の実施	講義・演習
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。</li> <li>・演習後は事後レポート、チェックリストを提出する。（詳細は演習時に説明）</li> </ul>	
テキスト		任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		岡庭 豊 他 編：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア 吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・36.創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)、38.経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)、39.経皮・外用薬の投与、40.坐薬の投与、41.皮下注射、42.筋肉内注射、43.静脈路確保・点滴静脈内注射、44.点滴静脈内注射の管理、55.静脈血採血、60.感染性廃棄物の取り扱い、64.患者の誤認防止策の実施に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と教員評価を行う。</li> <li>・45.薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)、53.検体(尿、血液等)の取り扱い、56.検査の介助、62.針刺し事故の防止、66.放射線被ばく防止策の実施の技術に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と他者評価(学生)を行う。</li> </ul>	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。)	

授業科目	基礎看護学診療補助技術 2		担当 教員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護は、看護が提供される場で看護の対象となる人々と実際に関わりながら看護実践を行うことが重要である。そのためには、基礎的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学び、看護技術を具現化していくことが求められる。看護を行う上で対象の状況をどのように把握し、看護援助の根拠や基盤を踏まえながら統合し実践へとつながるように、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療や処置を受ける患者の看護について担当教員の実務経験をもとに教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の健康状態の経過に基づき、それぞれの経過の特徴や対象者のニーズ、看護援助について理解できる。</li> <li>2. 対象の症状をもとに、看護を実践するための根拠および思考のプロセス、具体的看護援助方法について理解できる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容	方法	
1	2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 ・ライフサイクルとニーズ ・生活と療養の場とニーズ	・家族の機能とニーズ	講義	
2	2	健康状態の経過に基づく看護 ・健康の維持・増進を目指す看護 ・回復期における看護	・急性期における看護 ・慢性期における看護	講義 グループワーク	
3	2	健康状態の経過に基づく看護 ・終末期における看護			
4	2	主要な症状を示す対象者への看護 1. 呼吸に関する症状を示す対象者への看護 ・呼吸機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・呼吸機能障害に関するニーズ充足のための援助 (効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ)		講義	
5	2	2. 循環に関する症状を示す対象者への看護 ・循環機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・循環機能障害に関するニーズ充足のための援助 (血液循環の促進、心負荷の軽減、急変対応：心電図・除細動器)		講義	
6	2	呼吸・循環に関する症状を示す対象者への看護の実際 ・効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ ・ショック体位		演習	
7	2	3. 栄養や代謝に関する症状を示す対象者への看護 ・栄養・代謝障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・栄養・代謝障害に関するニーズ充足のための援助 (食欲不振・過食時の看護、嚥下訓練、非経口栄養法)		講義	
8	2	栄養・代謝に関する症状を示す対象者への看護の実際 ・経管栄養		演習	
9	2	4. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ・排泄障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・排泄障害に関するニーズ充足のための援助 (排泄機能障害を補う援助、二次的予防の予防、薬剤や医療処置を用いた援助：導尿・摘便・浣腸)		講義	

10	4	排泄に関連する症状を示す対象者への看護の実際 ・導尿：一時的導尿・持続的導尿　・浣腸　・摘便	演習
11	2	5. 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ・安全や生体防御機能のメカニズムとアセスメント ・安全や生体防御機能障害に関するニーズ充足のための援助 (安全を守るための援助、高体温・低体温の援助、 視覚・聴覚障害のある対象への援助)	講義
12	2	安全・生体防御機能障害、安楽の変調に対する看護の実際 ・罨法	演習
13	2	6. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 ・安楽に関する症状メカニズムとアセスメント ・安楽に関するニーズ充足に向けた看護援助 痛みのアセスメント、痛みに対する援助、リラクゼーション法 嘔気・嘔吐に対する援助	講義・演習
14	2	事例による看護実践の展開 医療機器を安全使用するための基礎的知識と看護	講義・演習
授業時間外の 学習		・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習後は事後レポート、チェックリストを提出する。(詳細は演習時に説明)	
テキスト		香春知永 他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ 近藤一郎 他：看護がみえる vol.2 臨床看護技術，メディックメディア	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		食事援助技術の 5.経管栄養法による流動食の注入について、6.経鼻胃チューブの挿入、 排泄援助技術の 8.膀胱留置カテーテルの管理、9.導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入、 10.浣腸、11.摘便、 呼吸・循環を整える援助の 29.体温調節の援助、30.酸素吸入療法の実施、 安楽確保の技術の 70.安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアについて、 演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては 減点することもある。)	

授業科目	基礎看護学臨床援助技術		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護基礎教育において臨床判断力の向上が課題となっている。臨床判断は、患者情報、臨床的な知識、状況に関する情報を考慮し、認知的な熟考と直感的な過程によって、観察事項、観察された情報の推論、援助活動の決定を下すことであることから、臨床や模擬的な臨床状況での実践を通して発達すると言われている。本科目では、既習（基礎分野・専門基礎分野・専門分野）の知識・技術を統合し、対象の特徴を踏まえ、看護目標を持った看護技術が実践できるように実務経験を活かし教授する。</p> <p>事例を提示し、グループワークを通して対象の状態に応じた看護目標を設定し、日常生活の援助計画を立案し、援助計画に沿った援助を実施できる能力を習得できるよう教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の特徴を考え、看護目標を持ち、援助技術を組み立てることができる。</li> <li>2. 対象の状態を考慮した援助を実施することができる。</li> <li>3. 実践の中での気づきを援助に活かすことができる。</li> <li>4. グループメンバーとしての役割を果たすことができる。</li> <li>5. 看護者としての自己のあり方について考えることができる。</li> </ol>				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	ガイダンス 事例演習紹介（5 事例）			講義・演習
2	2	状況をふまえた技術の構築（事例 1）			演習
3	2	状況をふまえた技術練習（事例 1）			演習
4	2	状況をふまえた技術の構築（事例 2）			演習
5	2	状況をふまえた技術練習（事例 2）			演習
6	2	状況をふまえた技術の構築（事例 3）			演習
7	2	状況をふまえた技術練習（事例 3）			演習
8	2	状況をふまえた技術の構築（事例 4）			演習
9	2	状況をふまえた技術練習（事例 4）			演習
10	2	状況をふまえた技術の構築（事例 5）			演習
11	2	状況をふまえた技術練習（事例 5）			演習
12	2	技術テストオリエンテーション、状況をふまえた技術の構築			講義・演習
13	2	状況をふまえた技術練習			演習
14	2	状況をふまえた技術練習			演習

15	2	まとめ	講義・GW
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習、演習課題の実施		
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	看護学教科書全般		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	環境調整技術の 1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、排泄援助技術の 7. 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、活動・休息援助技術の 15.移乗介助、16. 体位変換・保持、清潔・衣生活援助の 24.清拭、25.洗髪、感染予防技術の 58.必要な防護 具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、安楽確保の技術の 71.精神的安寧を保つた めのケアについて、自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達 の確認を行う。		
成績評価の方法と基準	①課題レポート 100 点 (別紙評価表による)。60 点以上を合格とする。 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ等によっては減点することもある。) ②技術試験は 100 点とし、60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①課題レポート 50%、②技術試験 50%で算出する。		

授業科目	暮らしの理解	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	本科目では「暮らす」ということがどういうことなのかを多角的に考え、暮らしのなかでの生活の困難さや人と人とがつながって生きる事の大切さについて演習を通して学びを深められるよう教授する。また、環境が健康に与える影響についても演習を通して考えられるよう病院での実務経験を活かし教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暮らしを多方面から理解できる。</li> <li>2. 地域で暮らしを営む生活者を理解できる。</li> <li>3. 地域における人と人とのつながりについて考え、支え合うことの意義について理解できる。</li> <li>4. 暮らしの基盤としての地域を理解できる。</li> <li>5. 環境が健康に与える影響について考えを述べるができる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	オリエンテーション・人々の暮らしについて	講義
	2	2	暮らしの基盤としての地域の理解 オリエンテーション：フィールドワーク（「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」）について	講義
	3	2	グループワークのオリエンテーション グループワーク① （フィールドワークのレポートを持ち寄り、「地域で健康的に暮らすための課題」「健康障害をもつ人が地域で暮らしつづけるための課題」について検討する）	演習
	4	2	グループワーク②	演習
	5	2	発表準備	演習
	6	3	発表会「暮らしと健康」	演習
	7	2	まとめ	講義
授業時間外の学習	夏季休暇中に「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」についてフィールドワーク（インタビューを含む）を行い、レポートを作成する。			
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域在宅看護の基盤，医学書院			
参考文献	講義中必要に応じ随時紹介する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	個人レポート 30点、グループワークの参加度 10点、最終レポート 60点、計 100点で評価を行う。			

授業科目	成人看護学概論	担当 教員	氏名	岩丸 花奈
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人看護学が対象とする「成人」の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解させ、成人の健康状態や健康問題を最新の情報やデータを基に変動する社会生活から理解できるようにする。そして、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方や方法を学ばせる。さらに、各健康レベルの対象と看護の概要について理解させ、後に続く方法論に繋がる思考となるようにする。臨床での経験を活かし、事例を用いて学生がイメージ化できるようにする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題が理解できる。</li> <li>2. 成人の生活スタイルと健康問題が理解できる。</li> <li>3. 健康の保持増進と疾病予防のための対策が理解できる。</li> <li>4. 成人の能力や生活背景を踏まえた看護が理解できる。</li> <li>5. 職業に関する健康障害と看護が理解できる。</li> <li>6. 感染症対策および成人のセクシュアリティに関する現代の問題が理解できる。</li> <li>7. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。</li> <li>8. 各健康レベルの特徴と看護が理解できる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 成人の概念、発達課題 成人各期（青年期・壮年期・向老期）の特徴	講義
	2	2	成人の生活スタイルと健康問題	講義
	3	2	健康に関する指標、生活と健康障害、職業と健康障害、 ストレスと健康障害、感染症の動向と問題 ほか	
	4	2	健康の保持増進と疾病予防のための対策と看護	講義
	5	2	基本的アプローチ	講義
	6	2	大人の学習と看護、人間関係、集団学習、倫理的判断、危機理論、 ストレス・ストレスコーピング、セルフケア、エンパワーメント、 コンプライアンス、自己効力、家族への支援、家族・患者会による 支援 ほか	
	7	2		
	8	2	健康の保持・増進のためのアプローチの実際	演習
	9	2		
	10	2	健康レベル別看護の特徴・・・急性期の看護	講義
	11	2	健康レベル別看護の特徴・・・周手術期の看護	講義
	12	2	健康レベル別看護の特徴・・・回復期の看護	講義
	13	2	健康レベル別看護の特徴・・・慢性期の看護	講義
	14	2	健康レベル別看護の特徴・・・終末期の看護	講義
	15	2	まとめ（国家試験問題に取り組み、振り返り）	講義

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。</li> <li>・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。グループ編成及び内容については別途指示する。</li> <li>・授業で説明した基本的アプローチの方法を使い、事例に合った看護を考える。</li> </ul>
テキスト	小松浩子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論，医学書院 国民衛生の動向 2023/2024，厚生労働省統計協会
参考文献	授業中に必要に応じて指定する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。(60 点以上を合格とする。) ※授業や演習時の態度、課題提出状況等も評価に含める。

授業科目	老年看護学概論	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>超高齢社会の中で生活する高齢者の全体像を理解するために老いるということはどういうことか、高齢者疑似体験や高齢者へのライフインタビューを通して個々の生きてきた生活背景や人生を知り、ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴と健康生活について学習を進める。また、高齢者の安全や権利擁護、倫理的課題等社会的背景を理解し、社会の中で求められている老年看護の役割を「高齢者」「家族」「生活環境」「ヘルスケアシステム」の4つの側面から学習を進める。本科目は、これから老年看護を学修する学生の礎となる重要な科目である。教員の実務経験を活かし臨地での場面を取り上げながら授業を進める。</p>			
到達目標	<p>1. 老年期の特徴が理解できる。 2. 高齢者の健康と生活を支える保健医療福祉政策が理解できる。 3. 老年看護に携わる看護師の倫理的態度について理解できる。</p>			
授業計画		内容	方法	
回	時間			
1	2	老いるということ 老いをいきるといこと 高齢者の特徴と理解	講義	
2	2	高齢者の特徴と理解 ライフインタビュー 身体に加齢変化	講義	
3	2	身体に加齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】	演習	
4	2	身体に加齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】	演習	
5	2	身体に加齢変化 高齢者の生活機能を支える 高齢者の特徴と理解 セクシャリティ 社会参加	講義	
6	2	高齢者をとりまく社会 超高齢社会と社会保障	講義	
7	2	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義	
8	2	老年看護の基本 老年看護の役割 老年看護における理論	講義	
9	2	生活・療養の場における看護 高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設における看護 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義	
10	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」	講義	
11	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」	演習	
12	2	高齢者のリスクマネジメント 高齢社会における権利擁護 高齢者と医療安全	講義・演習	

13	2	高齢者と救命救急 高齢者の災害	講義
14	2	エンドオブライフケア 「生ききる」ことを支えるケア 高齢者の尊厳をまもるための支援	講義
15	2	エンドオブライフケア まとめ	講義
授業時間外の 学習		授業に関する内容の予習と復習 課題の実施	
テキスト		北川公子 他：系統看護学講座 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 老年看護・病態・疾患論，医学書院	
参考文献		国民衛生の動向 2024 /2025 国民の福祉と介護の動向 2024/2025	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 60 点以上を合格とする。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	小児看護学概論	担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	小児看護とは何か考える上で対象を理解するために必要な知識を教授する。小児看護の対象は健康障害のある子どもだけでなくあらゆる健康レベルにある子どもとその家族である。子どもの成長発達の特徴を理解し、それらを学ぶ意義について考えられるようにする。また、子どもと家族を取り巻く社会について学習し、広い視野をもち対象を理解できるようにする。子どもの権利についても教授し、一人の人として子どもとどのように向き合うのか考えられる授業とする。小児看護の役割と課題についての理解を深め、小児看護とは何か考える基礎となるように実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象を理解する。</li> <li>2. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目標について理解できる。</li> <li>3. 小児看護における倫理と子どもの権利を守るための看護を理解できる。</li> <li>4. 子どもと家族を取り巻く環境を理解し、社会がどのように子どもや家族を保護し、対策を講じているかを統計的・行政的側面から理解できる。</li> <li>5. 小児看護の特徴と機能・役割について理解できる。</li> <li>6. 子どもの成長発達と評価の視点を理解できる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	小児看護の特徴と理念・小児看護の変遷・小児看護における倫理	講義
	2	2	子どもと家族をとりまく環境・家族の特徴とアセスメント	講義
	3	2	小児保健・児童虐待	講義
	4	2	母子保健・予防接種・学校保健	講義
	5	2	子どもの成長発達（身体的発達）	講義
	6	2	子どもの成長発達（身体的発達）	講義
	7	2	子どもの成長発達（心理社会的発達）・子どもの安全	講義
	8	1	まとめ（子どもの理解）	講義・GW
授業時間外の学習	チャイルドビジョンを実際に用い、活動する。 教科書の該当箇所を読み、疑問や分りにくい所を明らかにして講義を受ける。 事前課題・授業終了後の課題に取り組み期日までに提出する。			
テキスト	奈良間美保 他：系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論、 奈良間美保 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論、医学書院 東海林宏道 他監修：病気が見える 小児科，メディックメディア			
参考文献	筒井真優美：小児看護学，日総研 など			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。			

授業科目	母性看護学概論	担当 教員	氏名	平川 宣子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2024年度・1年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	母性看護の基盤となるセクシャリティとリプロダクティブヘルス/ライツの概念を教授する。母性看護は、女性の一生を通じて考える必要があることを理解できるようにする。また、母性・父性の役割を考えさせ、母性のライフサイクル各期の特徴やそれらを取り巻く環境を理解し、対象に応じた看護を理解できるように実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.母性とは何かを知り、母性看護の基盤となる概念（セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ）を理解できる。</li> <li>2.ヒトの発生・性分化のメカニズムと性周期について説明できる。</li> <li>3.母子保健統計に関する日本・世界の動向を理解できる。</li> <li>4.母性看護における倫理的問題を理解できる。</li> <li>5.母子の健康に関する法律・制度・支援施策について説明できる。</li> <li>6.女性のライフサイクル各期における看護が理解できる。</li> </ol>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	母性看護の基盤となる概念	講義・ DVD視聴
	2	2	母性看護の基盤となる概念	
	3	2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷	講義
	4	2	母性看護の対象を取り社会の現状 リプロダクティブヘルスケア	講義
	5	2	母性看護の対象の理解	講義・ DVD視聴
	6	2	女性のライフステージ各期における看護：思春期	講義・GW
	7	2	女性のライフステージ各期における看護：成熟期	講義・GW
	8	1	女性のライフステージ各期における看護：更年期・老年期	講義・GW
授業時間外の 学習	母性保健統計に関する課題 DVD視聴後の課題レポート			
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学1 母性看護学概論，医学書院 小田清一他：国民衛生の動向 24/2025 厚生労働統計協会			
参考文献	増田 暢他：国民の福祉と介護の動向，厚生労働統計協会 DVD 目で見える解剖と生理 Vol 13 生殖（47分） DVD そして父になる 是枝裕和 2013（125分）			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	終了試験 80点、課題（母性看護に関する統計・レポート）20点の計100点で評価する			

授業科目	精神保健看護学概論		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>精神の健康の回復・維持・向上を目的とする精神看護および精神保健の観点から、心の健康問題の身近さや心の健康の重要性および精神の健康を維持するしくみや精神の危機について概説する。また、日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷および日本が抱える課題を踏まえ、精神看護に携わる者としてのケアの前提や原則、理論について教授する。看護師経験および精神看護学領域担当として実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心の健康問題が誰にでも起こり得る身近なものであることを認識し、精神医療・看護における基本的人権と倫理問題を理解し、説明できる。</li> <li>2. こころの構造と機能が説明でき、こころの健康概念を理解することができる。</li> <li>3. 集団力動、精神健康を保つための機能（防衛機制、ストレスマネジメント等）について理解できる。</li> <li>4. ライフサイクル各期の発達課題に応じた精神的危機と看護の役割が理解できる。</li> <li>5. 精神保健・医療・福祉のこれまでのあゆみを理解することができ、精神保健・医療福祉における現状と課題について考えることができる。</li> </ol>				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	ガイダンス 第1章 精神看護学で学ぶこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神看護学とはなにか</li> <li>・「心のケア」と現代社会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害の体験と精神看護</li> <li>・精神看護の課題</li> </ul>	講義
2	3	第2章 精神保健の考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神の健康とは</li> <li>・心身の健康に及ぼすストレスの影響</li> <li>・精神障害の捉え方</li> </ul>			講義
3	2	第3章人間の心のはたらきと人格の形成 心のはたらき <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神力動理論（フロイト）</li> <li>・自我の構造と防衛機制</li> </ul>			講義
4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神症状を理解するための基礎知識</li> </ul>			講義
5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルと精神保健</li> </ul>			講義
6	2	第4章 関係のなかの人間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・システムとしての人間関係</li> <li>・人間と集団</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としての家族</li> </ul>	講義
7	2	第7章 社会のなかの精神障害 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害と法制度</li> </ul>			講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨むこと。</li> <li>・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示する。</li> <li>・課題は指定された期限日までに提出する。</li> </ul>				

テキスト	武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学 1 精神看護の基礎，医学書院 萱間真美，稲垣 中：精神看護学 I 精神保健・心の健康と地域包括ケア，南江堂
参考文献	川野 雅資：精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学），ヌーヴェルヒロカワ 森 千鶴：これからの精神看護学，ピラールプラス 平澤 久一：非言語的コミュニケーション UP 術，メディカ出版 水谷 緑：精神科ナースになったわけ，KADOKAWA（コミック本） 佐藤 秀峰：ブラックジャックによろしく，モーニング KC（コミック本）
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45 分）100 点で評価する。 授業態度、課題の遅れ等は減点することがある。

授業科目	基礎看護学実習 1	担当 教員	氏名	川島 己知																			
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員																			
対象学年	2024 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																			
受講要件	なし																						
授業概要	看護を行う上で、対象者の治療環境や療養環境を理解することは重要なことである。ここでは、既習内容と教員の看護師としての実務経験を基に患者の受診、療養環境を理解させ、入院が患者に及ぼす影響や患者のニーズとは何か考えさせ、看護援助の体験を通してその意味について臨地の状況に合わせ学習させる。全体を通して看護師としての姿勢について学習し、自己の倫理的配慮、態度を振り返り、看護に対する考えを強化する実習としたい。																						
到達目標	<p>基礎看護学実習 1A</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。</li> <li>2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。</li> </ol> <p>基礎看護学実習 1B</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。</li> <li>2. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションが図ることができる。</li> <li>3. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要な援助を考えることができる。</li> <li>4. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。</li> <li>5. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。</li> </ol>																						
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単 位</th> <th>時間数</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 病院の 理解</td> <td></td> <td>6 時間 (1 日) 実習のまとめ</td> <td>1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢</td> <td>1 年次 6 月 1 日</td> <td>北九州 総合病 院</td> </tr> <tr> <td>B 入院 患者の 理解</td> <td>1</td> <td>39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間</td> <td>1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護</td> <td>1 年次 1 月 5 日間</td> <td>①北九州 総合病 院  ②学内</td> </tr> </tbody> </table> <p>*その他詳細は実習要綱参照</p>					区分	単 位	時間数	内容	時期	場所	A 病院の 理解		6 時間 (1 日) 実習のまとめ	1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢	1 年次 6 月 1 日	北九州 総合病 院	B 入院 患者の 理解	1	39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間	1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護	1 年次 1 月 5 日間	①北九州 総合病 院  ②学内
区分	単 位	時間数	内容	時期	場所																		
A 病院の 理解		6 時間 (1 日) 実習のまとめ	1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢	1 年次 6 月 1 日	北九州 総合病 院																		
B 入院 患者の 理解	1	39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間	1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護	1 年次 1 月 5 日間	①北九州 総合病 院  ②学内																		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。事前学習は臨地で見直すことが求められるため、項目、内容ともに不備のないよう作成すること。</li> <li>基礎看護学実習で 1A は病院の役割、院内の環境、各職種の役割と内容、見学場所の特徴について学習する。基本的に GW とするが、事前学習時間に終了できない場合は時間外を使い準備する。</li> <li>基礎看護学実習 1B ではコミュニケーション、発達課題、療養環境、日常生活援助に関する内容について学習する。</li> <li>・実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や不得意な援助の練習をすること。</li> <li>・まとめ発表および事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。</li> </ul>																						

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	各科目の授業で使用されたテキストや文献を使用する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。